

2019年度 訪中国感想文集

日中経済交流研究会主催

日程：2019年10月20日～10月24日



大阪府中小企業家同友会

日中経済交流研究会 会長 大山 武久

中国やアセアンでのビジネス展開の事を学ぶなら

日中経済交流研究会 訪中国

参加者募集

イノベーション・環境・食品をテーマに 中国の中心都市 北京+天津 を訪れます

言わずも知れた中国の首都・**北京**。そしてこちらも中国の中心都市の一つ**天津**。今回は、この2都市を日中経済交流研究会ならではの視点からアプローチし、『今』の中国を観察します。両都市は、『京津都市間鉄道』と呼ばれる中国の高速鉄道で最初に繋がれた場所です。

深センとともに**中国のシリコンバレー**と呼ばれる「**北京中関村**」への訪問を始め、**中国国内で環境ビジネスに取り組んでおられる企業や、中国において日本酒を生産・販売を行っている企業**など、最新の情報を生で観て、かつ当事者から直接話が聞けるチャンスです。ぜひこの機会に中国の現状をみなさんの眼で確認して下さい。

参考資料：2019.10/20～10/24スケジュール

10月20日（日曜）	10月21日（月曜）	10月22日（火曜）	10月23日（水曜）	10月24日（木曜）
7:40 集合 関西空港・Aカウンター前 9:40 関西空港 発 NH979便（ANA） 12:05 北京空港 着 ↓ 13:00頃 バス移動（観光へ） ↓ 天壇公園 ↓ 前門 ↓ 18:00頃 夕食（全聚徳＜北京ダック＞） 20:30頃 ホテルチェックイン 京倫ホテル （京倫飯店）	9:10 京倫ホテル内、会議室集合 9:20 日中環境協力支援センター 大野木様 講演 ↓ 11:00頃 バス移動 ↓ 12:00頃 昼食（開発区内） ↓ 13:00頃 エ 中関村亦庄科技园（イジョウガキエ ン） ↓ 北京ベンツ（自動車） 北京盛通印刷股份（印刷会 社） 北京屹唐半导体科技（半導體 体） ↓ 18:00頃 夕食（東来順＜火鍋＞） 20:30頃 ホテル到着 京倫ホテル （京倫飯店）	7:20 集合 7:30 ホテル出発 ↓ バス移動（北京→天津）約2時間半 10:00 天津中谷酒造有限公司 （食品会社） 12:30頃 昼食（京東ロボットレストラン） ↓ 14:00 天津経済技術開発区投資促進二局 ↓ アルプス物流 ↓ 17:00頃 夕食（狗不理＜餃子・包子＞） ↓ 19:00頃 レストラン出発 ↓ バス移動（天津→北京）約2時間半 21:30頃 ホテル到着 京倫ホテル （京倫飯店）	7:50 集合 8:00 ホテル出発 ↓ 北京観光 8:30頃 天安門広場 故宮博物館 （景山公園） ↓ 13:00頃 昼食 ↓ 14:00頃 北京連合大学 ↓ 旅游学院日本語学科 16:30 出発厳守 ↓ 17:30 雑技団鑑賞（朝陽劇場） ↓ 19:00頃 夕食（橋場居酒屋＜日本＞） 「朝香」を飲む店 21:30頃 ホテル到着 京倫ホテル （京倫飯店）	9:30 秀水街・買い物（自由参加） 10:50 集合 11:00 ホテル出発 ↓ 12:20 北京空港 着 ↓ 昼食（空港内・各自にて） 14:20 北京空港 発 NH980便（ANA） ↓ 18:35 関西空港 着（帰国）

※都合により、時間の変更や予定の変更がある場合があります。
 ※訪問先では許可なく、写真撮影は行わないでください。

＜その他、注意事項＞

- ・モバイルバッテリー
- ・服装
- ・傘
- ・両替

——機内に預けず手荷物で持ち込んでください。没収されて荷物が出てこない場合、別行動になります。
 ——企業訪問時、スーツやネクタイ着用の必要はありません。

——折り畳み傘を持参ください。

——出発が遅れるので、北京空港で両替はしないでください。（現地ホテルで両替可能です）
 ——日本国内（関西空港含む）での両替はレートが悪いのでお勧めしません。

アメリカを追い越そうとする中国の実態

赤木法律事務所

弁護士 赤木真也

1 はじめに

今年で4年連続の訪中団の参加となった。米中貿易摩擦の中で、減速する中国と言われているが、その実態や中国の進む方向性に個人的に興味があったことから、この点を中心にまとめた。

2 進む環境対策と成果、その先（訪中2日目前半の感想）

日本の何倍も厳しい環境規制。水、空気、土壌等、厳格にルールに則って環境対策を推し進め、違反者には代表の拘束や高額の罰金等の厳罰をもって臨むという。各省・市にも厳しいノルマ。その結果は歴然。PM2.5の重度汚染やスモッグから解放され、秋晴れの澄んだ青空も十分に楽しむことができるまでに至っている。

そういえば、語学の学習過程で、中国は黄河の汚染を何とか回復しようとしているという記事を見た記憶がある。母なる河川をここまで汚してしまって、報いを受けるのはこれから先の子孫であると。現状の環境対策に現地企業等がほぼ素直に従っているのも、単にルールだからというだけではなく、「次の世代へ良い環境を」という人類からすれば普通の考え方からくるものだろう。そして、環境対策に何かと後ろ向きなアメリカを尻目に、環境対策でも世界をリードしようという意欲すら感じられた。

3 米中貿易摩擦と中国の方向性（訪中2日目後半～3日目の感想）

米中貿易摩擦の中で、強気な姿勢を崩さない中国。今回の訪中で、その単なるポーズではない理由の一端があればそれを感じられれば、と考えていたが、訪問先等からヒントを垣間見た。

2日目の訪問先企業の1つ、北京ベント。とほうもなく広大な敷地で、世界のベントの製造の最大拠点となっている（他にも、訪問先ではなかったがアウディの自動車製造会社も中国での生産が不可欠のパーツとなっているとのこと）。単なる製造拠点であるだけでなく、環境対策含め、技術の拠点でもあるようだ。

3日目の最後の訪問先で聞いた中国の自動車業界の現状によると、国策として最先端技術を用いた自動車業界の「4化」（電動化、スマート化、Eコマース化、シェアリング化）が進められているという。技術への投資額も半端ない。自動車業界において生産量だけでなく技術面でも、今後世界を牽引していくという中国の強い決意を感じる。

そして、中小企業ながら、シリコンバレーの半導体企業も傘下に収めたという企業へも訪問（2日目）。現状中国企業は、世界の時価総額上位に多くランクインしているが、それだけでなく、世界の半導体製造の主要な担い手にもなっており、いつかはアメリカを追い越し、世界を牽引するという姿勢を感じた。

さらに、【未来餐厅】という注文から調理・運搬までオートメーションで行うレストラン（3日目）。たまたま自分の座ったテーブルは別室なため従業員が一部配膳等していたが、料理を運搬して戻りゆくロボットを見ていると、飲食業界がここから世界的に確変していく予感がした。

これらを立て続けに見るにつけ、日本は…（以下略）と感じずにはいられないし、中国自身、自国の技術に自信を深めているように思う。

加えて、国費で海外留学して先端技術の勉強をしてきた帰国留学生を高額で受け入れて囲い込み、その若い研究者達がどんどん新技術の開発や後進指導に進んでいるという文章もとある本で見た。近い将来、技術の開発面だけでなく、優秀な人材育成も中国国内で相当程度調達する方向に行くであろう。

こうしてみると、中国にとって、貿易相手は多々あるし、アメリカを超えるために、技術・人材を自前生産し始め、その準備も着々としているようにみえる。現在の米中貿易摩擦による経済的不利益は、アメリカを追い越すという目標に向けての必要なコストと捉え、これが強気の原点にあるように思えた。

4 日本との差のさらなる開き～「日本は周回遅れ」の実感（訪中3～4日目の感想）

3日目訪問の天津・中谷酒造の中谷社長の話によると、既に接待交際費の相場は1人2万円を軽く超える中国。日本人向けの日本料理店では単価が安すぎて儲からず、日本料理店の主流は中国人向け。ここまで経済的に離されてしまっている。準富裕層だけでも日本の人口を超え、内需だけでも相当足腰が強くなっていて、発展の余地は多い。市内の活気も日本の比ではなく感じる（なお、訪中の後、別途上海を訪問した。外灘の巨大ビル群、上海市内中心部の多くの工事途中の物件、浦東空港の新ターミナルビルを見ていると、「衰退する日本」と「進化し続ける中国」の決定的な格差を認識させられた。さらに、町中で、5Gを実用化（販売開始）したスマホも大々的に広告宣伝されていた。日本とは数ヶ月の差だが、今後どう響くのであろう）。

4日目には、天安門広場等を観光後、北京連合大学を訪問した。観光学科では、世界各国の観光名所に関してアプリを用いた授業も展開されているという。学生がなかなか実体験できないゴルフやスキーのシミュレーションを用いた授業も展開され、出欠管理も全てIT化されている。また、4D映像に合わせて振動等も生じる快適な高級風座席に座って、宇宙探検する内容の10分ほどの映像も見せて貰った。そして大学構内ではキャッシュレスの自動販売機（顔認証付）。日本の大学で同じようなインフラが整うのにどれくらいかかるのだろう。

また、大学生との交流の中で、卒業後に日本で、中国向けの貿易会社の起業を考えている、という男子学生に会った。理由を聞くと、一気に儲けるなら中国かアメリカだが、成長スピードや変化を考えると、中国よりも日本での方が安定的に経営できるだろう、と。

経済面、インフラ面、起業意欲に消費マインド etc...既にもう日本は周回遅れ、という去年の松井社長の言葉は、今年はおなじみ、実感をもって感じられた。この国は民主主義だから、という言葉が空しく響く。

5 最後に

とりとめのない随筆風の感想となってしまった。高い技術と豊富な頭脳・人材を取りそろえた、圧倒的な製造業国に変貌を遂げようとしている中国。近い将来、アメリカの経済力を追い越す時代も到来すると思う。そのとき、自分はどんな立ち位置で、何ができるのか。米中とその周辺の関係も含めて、考え続けていこうと思う。

2019 年 訪中国 報告

アベル株式会社 居相浩介

3度目の訪中国・団長として訪問しました。

今年は中国の首都・北京と中国北部最大級の港湾都市・天津への訪問を実施しました。

訪中国としての北京への訪問はこれまでに実績がなく、手探りで訪問先探しを半年前から進めてきました。AI・IoT の活用ではすでに日本を大きく引き離している中国、その中でもイノベーション拠点として中国のシリコンバレーと呼ばれる中関村への訪問を目玉として計画しました。

しかし正面から門を叩いても大阪の中小企業団体を相手にする気がないようで、メリットがないと訪問先なんて選定できませんと、ツレない返答。ただ、それで諦めないのが我々、訪中国。

中関村の中でも製造業が集まる工業区があることを見つけ出し、今回の訪問を実現しました。

訪問先の詳細については、参加者の皆さまが面白おかしく紹介してくれると思いますので、私はコンパクトにまとめて報告します。

中関村・亦庄科技园では、大気汚染、水質汚濁など公害問題への対策を実施した会社にも恩恵があり、法改正などにいち早く対応することが企業に求められていることが分かりました。本気になった中国のスピード感は半端ないので、環境対策でも日本を抜き去るのではないかと感じました。

天津での移動は、全く計算通りに行かず、訪問先への到着が遅れに遅れてしまったことが大変残念でしたが、アルプス物流さんのお話はとても面白く、短時間ながら興味深い内容でした。総経理は大阪出身ということなので、是非帰国の折には日中の例会への登壇をお願いしたいと思います。なんとか天津での行程を終え、北京へと向かうバスの中で参加した皆さんの感想を一通り聞き終えて、北京まであとわずかとなったところで、事件発生。渋滞でバスが全く動かなくなっていました。大きな事故でもあったのかと、バスを降りて様子を見に行ってみても、状況は全く分からず。隣のトラックの運転手は足を上げて眠りにについているような始末。2 時間以上立ち往生し、もうバスで夜を明かすしかないかと覚悟を決めたころにようやく前の車が動き出し、ああ助かった。あとで聞いた話では、天津から北京に入るトラックはすべて荷物を検査されるようで、検査場への入口へと続く道をトラックがふさいでしまったために発生した渋滞で、あの時間帯はよくあることとのこと。(運転手調べとけー！)

いくつかのトラブルはありましたが、今回参加の 27 名の皆様が無事帰国出来て本当に良かったです。参加の皆さんが訪中国を盛り上げようとして下さる気持ちで、訪問団は成り立っています。

班長の中野さん、金津さん、福地さんご協力ありがとうございました。

訪中委員の皆さん、訪中委員以上に大活躍の戴さん、大変お疲れ様でした。

また来年も魅力ある訪中国にしていきたいと思います。

2019 年度 訪中団（北京、天津）

大山印刷株式会社 代表取締役 大山 武久

初めて訪中したのが 2009 年 11 月。浦東空港から蘇州へのタクシーから見る景色は“混沌”としていた。訪中前に持っていた人民服と大量の自転車という印象は吹き飛んだが、運転のマナーには驚かされた。すきを見ての横入りは当たり前。逆行すら事故さえ起こさなければ OK というものだった。初の訪中者は助手席という特等席で肝試しをさせられた。

その後の数年は、高速鉄道のチケットを買うために長い列に並び、いざ購入という時にピタッと窓口を閉められた。日時、行先を書いた紙を渡しても「没有」の一言で済まされた。ホンマに「なんちゃって中国」と感じることは多かった。それは褒めた言葉やなく、自分の子どもと同じという“進歩前”というものだった。

節目が変わったのは 2014 年の深圳。中国へ進出した日本の工場が中国から東南アジアに工場を移転すること。もはや工場という機能からの脱皮の時代。それと同時に訪日観光客が一気に増加した。中国国民の生活が裕福になり、貨幣価値の逆転が進んだ。生活水準の格差の拡大という面はあるが、市民が目指す対象が明確になったのだ。

2009 年カラオケの女の子たちはガラケーを使っていたけど、数年でスマホになった。スマホは中国の人々の生活を瞬時に変えていった。上海のマクドナルドでは WechatPay でしか決済できないと聞いた時に「まさか」と思ったが、数年で町中はキャッシュレス決済。滴滴出行（didi）アプリでタクシーを呼ぶので、流しのタクシーがない。北京では流しのタクシーがなく地下鉄に乗ることに。地下鉄で現金が使えることがありがたく思えた。

私は 10 年前の“なんちゃって中国”と、今の中国を比較して物事を考える癖がついていた。だが、今回の北京・天津への訪中団に参加して、その思慮の浅さにようやく気付いた。10 年後いや 5 年後を想像することが、人としての活力を生むのだと。「日本人頑張れ」の根幹なんだと。

日中経済交流会“北京、天津”視察について

(株) カナツ加工 金津 智俊

2019年10月20日から24日までの4泊5日で視察をさせていただきました。

20日に北京の空港に到着した段階から感じたことは、空気の悪さに驚きました。

目がショボショボして、鼻がムズムズしてしまいました。その後バスで北京市内に向かいましたが、車の多さで渋滞が激しいのは経済の発展とともに生活の向上で中国人の人達が豊かになっている証拠だと感じました。

上海、深圳、杭州そして中国に中心である北京とてつもなく広く、力強く、偉大そのものです。

第1日目、環境協力センターでの報告内容では、中国政府の環境問題に対して企業に法令遵守を強く求め違反企業にはとてつもない罰則金と改善されるまでの操業停止または経営者の拘束もあるそうで、中国企業、外国企業は企業の存続に生産性の向上の設備投資と環境対策用の投資も必要で経営課題が沢山あるのを実感いたしました。

次の視察先である、ベンツの工場ですがゴルフ場にあるカートに乗っての工場内視察ですがラインは休憩中で動いてはいませんが、整理整頓がされていて場内も綺麗でした、2分に1台の完成車との事です。ラインの動いている作業員の動きを見る事が出来なかったのはチョット残念でした。

第2日目、天津に移動で今回の視察で1番長くバスに乗せて頂きました。

天津中谷酒造様での視察は私でも努力すれば日本酒が作れるのではないかとと思わせるくらい細かく説明して頂きました。日本酒販売は日本国内では厳しい状況にあります。世界相手ではマーケットが限りなくあり挑戦中でした。大和郡山のお店に行つてこようと思います。その後は予定外のハプニングで時間が短くなり、アルプス物流視察での説明は1時間30分は聞きたかったです。流通業界でのノウハウがあるのとないのとでは関税が大きく変わるようで、今回の情報は初めて教えて頂きました。帰りの高速道路上での大渋滞、道路上で停止したまま1時間位時間をロスしました、原因は北京市内に入るトラックの積み荷と排気ガスの検査で料金所を封鎖して通行規制していたそうです。

第3日目、天安門広場の視察、中国人は一度は訪れたい場所だそうです。

北京連同大学、旅游学院日本語学科を視察させて頂きました。大学校の敷地はとても広いです、そして日本語が上手な学生が沢山いました、みなさんアニメが好きで日本関心を持ったようでした。その後、雑技団鑑賞可愛い子供もいればたくましい大人も交じりで感動いたしました。

第4日目、北京最後の日でホテルから空港へ、今回担当して頂いたガイドさん、とても日本語が上手で日本を好んでくれているようでとても好感が持てました。

今回の視察で中国政府の“守るべきものは守り、攻めるべきところは攻める”世策の徹底性がとても強く勉強させて頂きました。

2019 訪中団＜北京・天津＞に参加して

エス・ケー・データ株式会社

北川 眞里

ありがたいことに、昨年に続き、今年も参加できた。またもや前夜は徹夜。

現地ではいろいろなハプニングに見舞われたが、大きな事件、事故はなく無事に帰ってくることができた。楽しい経験、交流もたくさんできた。訪中委員の方々、訪中団の方々には感謝でいっぱいだ。

努力と忍耐。

中国における物流サービスを構築されている株式会社アルプス物流さん。一人で中国人の社員さんたちを統括されている日本人の方が、コミュニケーションは毎日とるようにしている、努力と忍耐だとおっしゃっておられた。

当たり前のことだが単に言葉が違うというだけではなく、背景が違い、考え方が違う。日本人同士でも同じことが言える。分かり合いたいと思うのであれば、こちら側は伝える努力を続けることはもちろんだが、それとともに相手が何かを言い出しやすい環境、姿勢をこちらが作り出すことも大事なのだろう。

「あなたはとても親切です」

訪中委員の戴さんの出身大学である北京連合大学の学生さんとの交流。いくつかのグループに分かれて、自己紹介や将来の夢などの話をした。その中に、自分の話したいこと、聞きたいことを日本語で伝えようと、都度スマホで調べて、懸命に言葉にしていた女子学生がいた。

限られた時間が終わり皆が席を立ちかけている時、彼女はスマホ画面をちらちら見ながら、それでも私のほうを見て、たどたどしくではあったが、こう言ってくれた。

どの場面でそう感じたのか理由は聞く余裕はなかったが、私に対して何かを伝えようとしてくれたその気持ちが嬉しかった。

最後に。「あとでゆっくり」は、今の自分にとっては不可能なんだとようやく悟った。事前の準備を十分に行い、その場であらかた終えられるようにする！

以上

3年連続3回目の参加でした。

参加の目的として、

1. 毎年訪問する事で中国の変化、課題などを知りたい
2. 旅行や出張等では行けない場所を見学でき、また現地の方の生の意見を聞きたい。
3. 5日間、ともに行動する会員の皆様と深く交流でき、色々教えてもらいたい。
4. 参加している間の会社を社員に任せる事で、社員の成長が楽しみ（でもドキドキ）

今回の訪問先は、北京、天津。今年2回目の北京ですが、5月に初めて訪れたときは、観光中心で上辺の中国、今回の訪問は中国で長い間ビジネスをしている方、現地の中国の方との交流が中心で、いわば内面の中国を見たような感じでした。

北京の印象ですが、政治の中心で歴史が残る日本で例えれば京都みたいな町だと感じました。華やかさで言えば上海の方が大都会と言えるな～という印象です。ただ、観光名所が多くあることもあり、人の多さは半端ない。USJでの待ち時間の列より長い列をなしている所もありました。

今回も様々な業種の会社に訪問させて頂き、現地で長くビジネスされている日本の方、日本と中国の橋渡しをされている中国の方、開発区の若い中国の方、日本語学科の大学生、など色々な方と交流させて頂きました。

話を聞く中で、特に印象に残っている事は

1. 中国は今や環境に関しては日本より厳しい。
工場での環境対策を厳しく管理され、やらないと商売ができない。
2. 中国は今やビジネスに自信をもっている。
大国であると同時に、順調にビジネスを成功させてきた余裕がある。中国人は3割成功する確率があるとやってみるが、日本人は9割成功しないとやらない。中国にはリスクはあるが、いっぱいビジネスチャンスが転がっている。やるかやらないかはあなたたち次第。と言われたのが印象に残っている。
長年中国でビジネスしている日本人の方からも、日本人はもっと頑張らなアカン！と言われた。
3. 中国は今や海外に目を向けている。
中国の若い人は留学経験も豊富で、英語日本語も堪能で、自分の意見を言える優秀な人が多い。政治的にはややこしいが、日本や海外が好きな人も多い。最終日の夜の雑技団も初めて生で見て感動しました。演出も凝っていて、外国人観光客向けにもなっているような印象でした。

今回、訪中国に参加させて頂いて、自分の目で見て、耳で聞いて、体で感じることの大切さを感じました。

又、5日間一緒に行動したみなさんと色々交流させて頂いて、大変有意義な時間でした。

企画から携わらせて頂き、いろんな想定をしても、トラックの検問渋滞で帰るのが深夜になったりといろんなことがあると改めて思います。中心になって動いていただいた、居相団長、谷本さん、そして今回大活躍の戴さん、素晴らしい企画ありがとうございました。

日中「逆転」の30年を思う

坂元正三（坂元鋼材株式会社）

訪中団に私が最初に参加したのは2009年でした。それから11年間で7回目の参加です。さらに別件で3回の訪中。ほぼ毎年に近いペースで中国を観察することにより、訪問場所は違えども中国の急成長を肌で感じてきました。

■ 私の知っていた「昔の中国」

思えば30年近い昔になる学生時代、私が中国を初めて訪れたのは1991年でした。友人と二人で夏休みの3週間に上海、北京、ハルビン、南京を巡りました。

当時は中国の改革開放政策もまだ始まったばかり、民主化運動を人民解放軍が蹂躪した天安門事件から2年目のころ。中国はまさに発展途上国そのもの。平均賃金は日本円で4000円と言われていました。

街並みも古く、庶民の交通手段は自転車、クルマは質の悪い国産車ばかり。また首都の北京駅ですら駅構内で寝泊まりする大勢の中国人でごった返していて非常に不衛生かつ不気味でした。列車の切符を買うにも長蛇の列、しかも割り込み、飛び交う怒号……。 「一体この国はどうなっているのか」――。それが正直な感想、本当に不思議な体験でした。

一方で、天安門事件のあった1989年、日本はバブル経済真っ盛り。振り返れば、このころの日中の経済格差は極限まで開いた時期でした。

その後1993年から94年にかけて吉林省の長春市に2年間留学しました。経済状態も社会の実情もまったく同じ。古くさびれた街並み、粗悪な中国製品、政治的にも自由のない人民たち。大変な社会でした。

その後、私は中国留学から帰って社会人になってから1997年、2006年と中国を2度訪れています。しかし私の中国観はさほど変わることはありませんでした。

■ 勃興した中国

そして同友会に入って初めて参加した訪中団（2009年）、そこでも同様の感想のままでした。このころの労働者の賃金は日本円で月額2・4万円と言われていました。

この時は近代のかつ巨大な上海新空港（浦東）、リニアモーターカー、林立する高層ビル群を見えています。しかし、「あの巨大な中国、その『ごく一部』が豊かになったのだ」――。そう思い込む自分がいました。

訪中国で中国を見続けた私。その中国観が大きく変わり始めたのが 2015 年の訪中国（廈門）でした。中国は訪れるたびに高層マンションが増えている。そして「マンションは一室 100 平米が普通で日本円で 1 億円クラスはザラ」と聞いたとき、自分自身の経済感覚に置き換えて驚きました。「まさか、あの中国が・・・」

その 2015 年の廈門はすでに街並みも極めて立派でした。台湾や韓国の街並みとあまり変わることがない、そう感じました。労働者の賃金は都市住民では 8 万円以上と聞きました。しかし、それ以上に「資産バブル」により裕福さを享受していたのです。

■ 日中「逆転」

このころ、20 年ほど前の留学時代に親しくしていた中国人が来日して大阪に来てくれました、そして久しぶりの杯を重ねました。山東省の貧しい農村出身だったという彼が、いまや外資系自動車メーカー（仏プジョー）の営業職として大成功していました。投資用のマンションは 5 戸持っていると言っていました。彼はまさに「金ピカ」でした。にわかには信じられない。あの粗末な学生寮にいた彼と同一人物だとは。

そして、決定的だったのが昨年 2018 年の訪中国（大連）でした。当地に進出して 25 年になる松井味噌の松井社長は「中国はすでに非常に豊か。日本はすでに貧乏」と喝破されました。

「だからインバウンドがあれば大阪に『買い漁り』に来る。むかし日本人が東南アジアなんか買い物に出かけて『安い、安い』と言っていた。いま中国人が日本に来てそうしている。GDP は 2010 年に追い抜かれた、いまは 2.5 倍差になっている。ビジネス上は周回遅れ。後ろが見えない状態。中国経済は日本を抜いた。『かつて文革で失敗して 30—40 年だけ日本にリードを許したけど、もう一生負けないよ』という感じだ」――。

今年の北京、天津でも経済の発展ぶりは否応なく目にしました。

北京は 26 年前の学生時代に 3 カ月住んで良く知っているつもりでしたが、もはや別世界でした。林立する高層ビル、縦横無尽に張り巡らされる高速道路網。地下鉄は私がいた当時は確か 2 路線だけでしたが、いまや 23 路線となり輸送人員は世界一です。街を走るクルマはベンツ、アウディ、BMW、レクサスなど高級車が目白押し。

人々の様子ももはや日本や韓国・台湾となんら変わりません。街も清潔になり、かつての北京はもう思い出せません。

この30年間(ちょうど平成という時代に重なる年月)に日中の経済的立場は逆転しました。1989年(平成元年)、日本はバブルの絶頂期。そして中国は天安門事件で政治的には大混乱し、経済的にも呻吟していました。しかしその後の30年間はきわめて対照的なベクトルを描いた日中両国。

日本はバブル崩壊からの「失われた20年」いや「30年」と言われるほど経済の長期低迷に喘ぎました。国際的にみても国民一人当たりのGDPは26位という痛ましいデータがあるほどです(1988年は世界第2位)。

■ 中谷酒造さんの見学でも知った「逆転」

さて、今回の訪中国の目玉の一つが、天津の中谷酒造さんの見学でした。江戸時代から続く奈良の造り酒屋・中谷酒造6代目当主の中谷正人さんは25年前から中国に進出し、天津で清酒造りをしています。2年ほど前に当研究会で講演していただき、そして今回は現地(天津)の酒蔵を実地に見分できました。これぞ、生きた学びの真骨頂でした。

中谷さんが中国・天津での酒造りを決心したのは、冬の低温があり、そして戦前に日本人が作った広大な水田がそっくり残っていることが決め手でした。当初は「中国で醸し、日本で詰める」という方針でしたが、ほとんど中国で売り切ることになりました。なぜか。

1990年代に中国に進出してきた多くの日本企業、その出張族や社員たちを相手にした居酒屋や日本料理店がたくさんできました。さらに豊かになった中国人たちが日本食を求め始めました。

一方、日本にいる日本人は清酒を飲まなくなって久しい。アルコール消費のうち清酒は5%ほど。だから日本に輸出するのではなく中国マーケットで売ることを基本としました。いまや中谷酒造の「朝香」は中国で大人気ブランドの日本酒に成長しました。

中谷氏の言葉です。「中国にある日本式料飲店は、いまやお客の99%が中国人である。また日本人客ばかりの店は儲かっていない。日本人客は、しぶい。日本の感覚で客単価が3000円とか5000円とか。しかし中国人が来る店は値段設定が高い。4-5万円のセットもある。だから儲かる。例えば日本企業の接待メシが1万円水準なら、中国は2万円。都市住民の生活水準がそこまで来ている」――。ここでも「日中逆転」の現実が浮き彫りになりました。

■ 日本人は「頑張らんとイカン」

今回の旅でも日本と中国の力関係のことが頭から離れませんでした。訪問した物流企業(アルプス物流)の総経理・岩前氏にこの30年を聞きました。中国各地で展開する日本企

業の物流を担っており、日中のビジネスを現場で見続けてきた方です。「中国人は 40% 考えてゴーだ。日本人は頑張らんとイカン」と渋い顔でした。

訪中国の仲間で 30 代の若い経営者がぼつりと言いました。「日本がまだ勝っていると言えるのはトイレのきれいさくらい」――。行く先々で中国の急成長を見せられる日々だった私たちにとって、妙に共感を呼んだ発言でした。

しかし急成長に伴う「ひずみ」も各方面から指摘されます。環境規制に躍起になるのも、大気汚染や水質汚濁などという公害（それはかつての高度成長期の日本がたどった道）という背景があるはずです。経済発展の行きついた先のバブル崩壊とそのツケ、という日本の失敗から中国も学ぼうとしています。

この巨大な隣国とどう付き合うのか、それが日本の今後を左右します。なんとしても双方勝利の方途を模索せねば。そう強く思った今回の訪中でした。

2019 年訪中国感想文

坂本造機 会長 坂本 進

中国旅行は友人などと年2回ほどで、同友会訪中団としての参加は2年ぶりです。今回は気候の良い10月だったが北京は大阪よりは少し寒く感じた。前回浙江省平湖に行った時は少しメンバーが違ったが、訪中団独特の和やかな空気は変わらず自然に溶け込めた。

北京は2度目だったが、今年は建国70周年で国慶節のすぐ後でもあったので天安門広場も巨大な花壇やスローガンの書いた大きな看板などで華やかさがあつた。観光客の多さは相変わらずで、その割に警備は少しゆる目で概してピリピリした空気はなかった。

講演

環境コンサルタントである大野木先生から中国の環境規制に関して聞いた。中国は急激な発展の副作用とも言える大気汚染など環境悪化に対してここ数年法令を定め企業に向けて厳しく順守するよう指導している。その甲斐あって施行前に比べ数値が大幅に改善して効果をあげている。日系企業も法令に従って対応しているがそれでも有名企業が処罰受け多大な罰金を求められるケースが度々起っている。その原因や対処方、今後の法律の方向性を学んだ。日本は公害などで環境保護の先進国と認識していたが、その認識だけ持っていた中国では通じないで苦労している実態を知った。

訪問先

北京イシヨウカギエン開発区

北京ベンツ

広大な敷地の中に車生産とは関係のないサッカー場やその他競技場などあり福利厚生施設などが充実しているようで世界を相手にする大企業の余裕を感じさせた。エントランスでの企業紹介は英語だったので少し理解しかねた。カートで工場内の様子を巡回して大まかに車の製造の様子が理解でき2分に1台のペースで生産するという驚異的な生産性に驚いた。

ただ車輛関係の仕事があり車に大いに興味ある参加者も多い中、滞在時間が短くてじっくり見学する余裕が欲しかった。

北京盛通印刷

単なる印刷だけにとどまらず製本し出版する事業まで展開している。またロボット産業をグループに取り込み今後の発展のアイテムにするなど既にあるビッグビジネスに飽き足らず時代を先取りしようとする貪欲な姿に感嘆するばかり。

北京屹唐半導体科技

運悪く大きな生産の後で生産設備の稼働具合は見られなかった。事業は30年前に設立され政府主導の中国製造2025もありここ数年倍々ゲームで発展したが昨今の米中貿易戦争のあおりで米国からの原材料のコスト高や輸出規制により国内での調達に切り替えるのに非常な苦労が予想される。

天津中谷酒造

日系企業で今回一番聞きどころだったように思った。80年代の円高ショックにより経営が悪化していた家業の酒造メーカーを中国での成功に導いたのは中谷社長の経歴と親からの資金の支援もあったが、それ以上に次々と繰り出す独特な経営感覚から出たアイデアであつた。

日本酒の成り立ちや製造に関することを分かり易く説明いただき工場の見学もした。ここでは表現しきれない面白い話を聞かせていただいたが、一番衝撃的だったのは顧客として概して飲食にケチな日本人は相手にしていないということだった。

アルプス物流

予定の大幅な遅れにより極端に滞在時間が短くなったが、会社の強みや中国と日本の物流の違いを聞かせていただいた。時間がなかった中で面白い話が多かったのもっと聞きたい気持ちが強かった。日本帰国時に合わせてもう一度報告を受けられることを願う。

北京総合大学旅遊学院

大学としての取組である観光資源発展の展示などをまず見た。バーチャルゴルフや月面旅行の映像体験などをした。その後で学生達とのコミュニケーションを通して日本に対する思いや日本留学、就職などについて意見交換した。日本に留学してそのまま就職希望の学生の話聞き、日本に好意的な空気を感じると共に中国での大卒の就職事情も気になった。

最新技術

大阪でも調理を機械化しているレストランもあるようだが天津にあるロボットレストランでは注文から食事後の決済まで無人でやっているというふれこみだったが、実際には調理と客席までの運搬のみで、その他は店員がやっていた。来客側にも慣れがまだ必要で急激に無人のレストランへ変化していくのにはまだまだ時間を要する。

またドリンクの自販機が顔認証で使えるのを見た。便利かもしれないが女性だったらメイクによって認証不能になることもありうるし、プライバシー保護の意味から、それほど利用されないのではないかと思ってしまうのは時代遅れの感覚なのか。

今回の訪中を終えて

米国との貿易問題の最中、訪問先企業では、中には原材料など米国からの輸入を中国国内調達に変更せざるを得ない所もあったが、国内市場向けの企業はそう閉塞感なく活動していた様子。自社の強みを武器にして市場を上手く取込むしたたかな企業の存在も確認できた。

やはり世界最大14億人の市場は巨大であり、その僅か一部でも取込めたら驚くほどの成長に乗っていける。目の付け所、市場の変化の兆しに感覚を研ぎ澄ましつかみ取る感性を磨いていくことが何よりも重要とする。

日本人は慎重すぎて石橋を叩いても渡らないことが多い。中国人は可能性が少しでもあればチャレンジしていく。これが日本と中国の企業の成長差として現れているのを確認した。ただ高度成長が終息し人件費の高騰、万年人手不足や米国との貿易問題など難問が山積している中で中国ビジネスを成長軌道に乗せるには臨機応変な対応と苦勞に耐える強靱な精神力なしにはやっていけないと感じた。

2019 年訪中国感想期

アステム株式会社 柴田充啓

北京・天津は 8 年前に訪問して今回は 2 度目でした。

8 年前と比べてどれ程進化しているかも興味ある訪中国の初日が W 杯の日本 vs 南アのベスト 4 かけての試合と重なりました。

北京ダック食べながらの自己紹介タイム中は、スマホの実況サイトでドキドキ、前半終了時に自分の番が回り、日本 vs 南アは 3-5 で勝ちパターン、後半に向けて「One Team」で頑張れ、この 4 日間「One Team」で楽しもうと、スタートした訪中国でした。

アパルトヘイト(人種隔離政策)が解除された 95 年に自国開催となつた第 3 回 W 杯で、南アは「One Team, One Country」というスローガンを掲げて初優勝を果たしました。それは「インビクタス」でも映画化された感動物語です。

今回の訪中国で感じた事は、中国が「One Country」を目指しているという事です。

以下のような事例が理由です。

- ① 11/21 の大野木氏講演で、共産党が国民から支持されるために強化している事が、EV・AI・ドローン等の次世代産業推進、排ガス VOC 規制等の大気環境改善政策。
- ② 同日訪問した印刷会社では、1 人子政策が終了し、祖父母両親で手厚い教育志向に政府も後押し政策の風に乗って、本の印刷から教育産業にウェイトをシフトしている。
- ③ BEST では、中国人の未経験者をアメリカやドイツに研修と、ここも教育熱心。

以上のように、共産党主導で環境対策、教育支援、経済発展と国を挙げて進めています。

折しも天安門広場では、中国建国 70 周年の名残か、大勢の人が一つの目標に向かっていくような活気ある姿が映りました。

しかし、光の当たる所には投資と規制強化で伸ばしているが、影の部分は手付かずで、貧富の差と同様にギャップがあるように思われます。

天津から北京に帰るバスのトラック検問で平気で長時間ストップさせる当局、コンビニ店員の不愛想な対応、トイレや裏通りの町並みのきたなさ等の文化面は置き去りにされているようです。

国の「One Country」政策と共に、人々の意識が「One Team」になれば、素晴らしい大国になるでしょう。

最後に YouTube で限定公開した動画のアドレスを記載します。

動画：<https://youtu.be/QAOTxrG633k>

写真集：<https://youtu.be/ddmkbxQ66jU>

2019/11/25

2019 年訪中団 報告

株式会社エフエスカンパニー 谷本 優

今回で3年連続3回目の訪中団参加となりました。

訪問先は中国の首都北京と大都市天津へ訪問をさせていただきました。本年も訪中委員として参加させていただきましたが、相変わらずゲスト参加のような気持ちで当日を迎えたことを毎年反省をしております。

北京へは約6年ぶりに行かせていただきましたが、当時の北京の印象は空気が悪く、とにかく車も人も多く、青空はなく暗いイメージでした。今回訪問をさせていただき、そのイメージは180°変わっていました。連日青空で街には緑の木々、至る所で綺麗な色の花が咲いていました。車の渋滞に関しては、バイパスや環状線が出来ているようですが、道路以上に自動車の台数が増え、連日渋滞が起きています。また現在は交通ルールも非常に厳しく、道路には防犯カメラで監視をされているため、以前のようなルール無視の運転は出来なくなっています。

その一方でレンタル自転車が各地に設置されており、利便性と価格も安価ということで北京の若者もよく利用している光景を見かけました。

今回の訪問先は北京・天津ということで人件費やその他経費も他地域より高いこともあり、自動化やIT化が急速に進んでいるのが目に見えて感じる事が出来ました。

本年の訪中団で初めて中国の首都北京を見ることで、参加された方が中国の環境への本気度、中国への可能性を改めて感じる事が出来たのではないのでしょうか。

私自身も中国でのビジネス拡大への可能性を改めて感じる事が出来ました。

まだまだ中国には伸びしろがあり、強みや逆に改善点もたくさんあります。

これからも中国という大国とは切っても切れない良きパートナーであり、良きライバルとなっていけないといけないと感じた5日間でした。

本年も27名という多くの方々のご参加をいただき、訪中委員として至らない点も多くあったかと思います。首都北京の交通事情を甘く見ていた面は反省点としてありますが、天津から帰りのバスでのトラブル時でも皆さま一人一人のお話をお聞きする時間も出来、これも経験としてはアリだったのかなと思っております。

ご参加いただきました皆さま、居相委員長・戴さん・訪中委員の皆さま5日間有難うございました。

2019 年 訪中国（北京・天津）感想

訪中委員の皆様には、訪問先からエンターテイメントにいたるまでの素晴らしい企画ならびに、バス乗車中から食事、2 次会に至るまで細やかな心遣いをして頂き、参加者全員が楽しめるようご配慮いただいたことにあらためて御礼申し上げます。ありがとうございました。感想としては以下 4 つの訪問先について述べたいと思います。

① 半導体製造装置の「屹唐半導体科技（BEST）」

アメリカのナスダック上場の Mattson Technology Inc を開発区の投資会社である E-town Capital とドイツの会社（中国企業が設立？）で買収してできた会社とのこと。そもそもこの成り立ちの説明自体がしっくりこなくて、違和感が残っておりました。勝手ながら、ドイツの会社をダミー会社にして中国政府（E-town Capital 自体が地方政府の出資する国営企業と理解しました）がアメリカの技術を買ったようなものと推察します。数年前から、欧米では「中国企業による企業買収」を阻止するような動きがありますが、その実態を現地でみたように感じました。

② 天津中谷酒造

中国で日本酒を製造し、自社の物流をもって販売するという、中谷社長の起業家精神には、あらためて敬服いたしました。ただ、夕食時に頂いた「朝香」は、大和郡山で頂いた「奈良吟」と比べると、同じ純米大吟醸とはいえ、少なからず風味に違いがありました。少し気になって、中谷酒造さんの以前の記事を読み直したところ、朝香に使用する「原料の中国産ジャポニカ米は、酒造用の専用品種ではない」とのこと。もしかしたら、原料である米の品種が日本酒の味に影響しているのかもしれませんが、中国へ日本酒を輸出した場合の関税等は 50%程度のようなので、現地で製造し、物流網を構築し、中国市場で中国製の日本酒を販売することには、大きな意義があります。昨今の中国での日本酒市場の急速な拡大に、中谷酒造さんは大きく貢献されているとあらためて感じました。

③ アルプス物流

2015 年に訪中国で廈門に行ったときにもアルプス物流に訪問しましたので、私にとっては今回が 2 度目の同社の中国拠点への訪問でした。廈門のアルプス物流は TDK の廈門工場との取引が 90%だったためか、他社との差別化要因をあまり理解できなかったのですが、今回はご説明いただいた岩前様のお話に、大手物流会社にはない特長をもった企業であると実感しました。今回は 30 分程度のお話でしたが、足りなかった時間の分はぜひ、今後の例会で講師としてお話いただきたいです。

④ 北京連合大学

校内に、5D シアター、シミュレーションゴルフ、針打ちロボット等があり、相当な費用のかかった興味深い施設でした。それらの施設が本当に学生の勉強に活用されているのかとの思いはあるものの、細かいことは気にせず（？）に、良いと思ったものには遠慮なく投資するという方針に感銘を受けました。こころ（夏目漱石）を日本語で読んでいる学生や、卒論のテーマに「源氏物語のもののあはれ」を選んだ学生があり、その意識とレベルの高さに、大変驚きました。機会があれば、また彼らと日本でお会いしたいです。

以上

訪中団感想

今こそ中国から学ぶとき

弁護士法人法円坂法律事務所

弁護士 中 島 宏 治

最初の海外旅行は、大学1回生のとき、1986年の中国旅行だった。このときは、神戸から船（鑑真号）で上海まで行き、上海、蘇州、北京、広州、香港と移動して飛行機で帰ってきた。3週間ほどの滞在だった。まだ人民服が主流で、兌換券もある時代だった。北京の天安門は、とにかく広かったという印象であった。人々は貧しく、それでも親切な人々だった。それから3年後に天安門事件が発生して、とにかく信じられないという気持ちでいっぱいだった。

それから10数年経ってから再び訪れた中国は、本当に変化していた。改革開放が進み、開発区に工場が立ち並び、世界の工場としての地位を築いていった。その後は、毎年中国を訪れ、大連に駐在もして、変化に対し驚くことも減っていった。

同友会の訪中団は、単なる観光ではなく、現地にいる方の話をじっくり聞くことに最大の特徴がある。話を聞くだけでなく、たくさん質問をして、自分たちの感覚と現地の感覚のチューニングを行う。その作業により、肌感覚で中国を知ることができるのである。

今回、北京と天津を訪問することになり、大野木さんと中谷さんのお話を現地で聞きたいと考えて、アテンドすることになった。

大野木さんは、環境問題の専門家として中国にわたり、日中の環境問題について最も専門的知識を有している方である。彼のメールマガジンは情報が多くて最新の情報が満載である。最も注目すべき点は、「環境問題の取り組みの本気度」だと思う。従来の環境対策は、日本企業だけがまじめに取り組んで、ローカル企業は地元役人をつるんでなあなあで、ということが主流だった。ところが、ここ数年は、地元役人も処罰の対象となるため、抜け道が許されないことを外資企業のみならず、ローカル企業も大変な思いをしているというのが現実である。大連で環境問題セミナーを開催したときも、現地法人の関心が高いことがうかがえた。今回の大野木さんのお話は、僕が普段感じている中国の環境問題と対策の重要性を訪中団の皆さんに実感してもらうのに十分だったと思う。

中谷さんは、90年代から天津に日本酒を製造する工場を立ち上げ、中国全土に本格的な日本酒を販売している。僕が大連にいるときも、日本料理店で何度も「朝香」を飲む機会があった。そのような日本人駐在員になじみのある日本酒が、どのようにして製造されているかについては、現地で設備を見ながらお話を聞くことがとても興味深かった。そこで感じたのは、徹底した温度管理という技術の高さと、販売戦略を何度も練り直しているマーケティングであった。日本料理店に焼酎が出回ってからは、日本人は焼酎は飲むが日

本酒は飲まない傾向が強くなっていった。日本酒を飲むのは日本人ではなく中国人である、という指摘は現地にいるからこそ発せられる言葉であった。中国人が日本人を超えているということを、中谷さんの話から感じ取った人は多かったと思う。

中国のローカル企業を訪問して感じたことは、日本よりもスマート化が進んでおり（特に印刷業界において感じた）イノベーションが進んでいるということであった。もはや中国から学ぶ時代に入っていることを改めて思った。ロボットレストランやキャッシュレス決済の現場を多く見たことも印象深い。

他方で、中国人の若手幹部の発言には、「日本にはすぐれた技術があり、積極的に日本から学びたい」「日本企業の進出を歓迎する」という低姿勢なところも多くあったように感じた。

ひるがえって、日本はどうだろうか。まだまだ日本の技術はすごい、中国は遅れている、という発想から進んでいないのではないか。当たり前のことだが、中国を知らずして、中国を語ることはできない。今こそ、謙虚に中国に学び、中国と共同でビジネスをして、共に発展すること。そのような時代に入っていることを改めて思った訪中団であった。



訪中レポート 2019 年度

カワモト・マニファクチュアリング株式会社

代表取締役 中野幹生

2019 年度の訪中団は、いよいよ中国の首都北京を訪問することになりました。私にとっても北京訪問は 8 年ぶり。留学生を採用する際にご両親に挨拶に行っていたので。

また、訪中団への参加は 12 回目になりました。毎年参加しているのは、それぞれの街に確かな出会いがあり、豊かな学びがあった証でしょう。訪中委員会のメンバーや現地進出の経営者さんのご尽力ぶりも、参加意欲を高めてくれます。いつもありがとうございます。

折角なので、これまでの訪問先をご紹介します。

～ 訪問先振り返り ～

2008 年度 南京・郎溪・合肥・蘇州・上海

2009 年度 上海・蘇州・無錫

2010 年度 上海（万博）・蘇州

2011 年度 義烏・蘇州・上海

2012 年度 寧波・蘇州

2013 年度 武漢

2014 年度 香港・深セン

2015 年度 廈門

2016 年度 西安

2017 年度 杭州・平湖

2018 年度 大連・丹東

2019 年度 北京・天津

番外編

2014 年度 大連・丹東・瀋陽・旅順・長春・ハルビン

自分にとって初めての中国が 2008 年度の訪中団でした。そのときの感想文のまとめがありますので、この場をお借りしてご紹介しておきます。僕の予感が 12 年経っても外れていないということは、今回訪中団で実感された皆さんの予感も、10 年後に現実化していることでしょう。

「・・・果たして異常なのはどちらなのか。重厚な文化の気配がし、広大な大地があり、未来を信じる人間が大勢いて、政権は世界のどこよりも安定しています。変わりゆく中国で起こっていることは『信じられない』喜劇に見えるかもしれませんが、しかし、上海の巨大な摩天楼群を見上げながら感じるのは、アジアの中軸となりつつあるこの地を無視して私たちの未来を考えることなどできないという現実なのです。中国はいま過剰な教育熱に燃えています。それは今後 10 年以上にわたって、優れた人材が大量にビジネスの世界に飛び込んでくることを意味します。そのとき、人間を使い捨てにしてきた日本社会は、彼らに対して誇れるものを持っているのでしょうか」筆者

今回の訪中団では、北京にある天壇公園を訪れましたが、これが一番の収穫であったと思います。

天壇は、中国皇帝が年始にあたって天に為政の予先を問ひ、その意を授かる神聖な場です。皇帝をあらわす色は黄色、天をあらわす色は青色。天壇の屋根瓦は青色に彩られています。

僕は長らく中華思想の中心には「皇帝」が君臨していると信じてきましたが、天壇の存在はこれを否定するものです。すなわち、この思想の正統性を担うのは、天の意思ということになります。

小高い丘の上に屹立する塔を目指して、地方からやってきた旅行者が蟻のように這い上がっていきます。上海万博の頃のように赤や緑の帽子をかぶったおじさんおばさんたちは、真っ黒に日焼けした皴だらけの顔を見合わせながら、大声で談笑しながら進んでいきます。こざい都市住民の出で立ちとはまったく異なるそのファッションからも、北京から千キロ・二千キロも離れた辺境からやってきた農村住民たちだと想像できます。

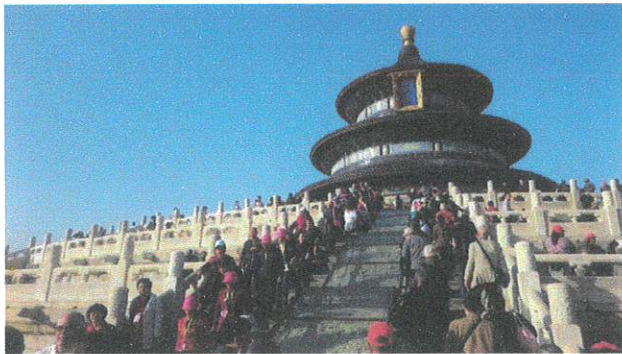
中国はそんな田舎から団体旅行が可能なほどに豊かになりました。そのいっぽうで彼らの姿は、相変わらず皇帝を通じて天が大地を支配する中国の姿を、感じさせるもので

もありました。

額に汗して土を耕しながら生きる彼らの日常は、文字通り天の意思と深く結びついています。いっぽう皇帝の日常も、彼らの貧困や労苦とはもともと無縁と思われながら、彼ら同様に天の意思と深く結びついている・・・その力強さこそが中華思想の本領といえるのでしょう。

中国を持ち上げると日本を卑下するように聞こえるかもしれませんが、そうではありません。日本もまた（一時を除けば）立派に天の意思を実践してきた国家です。

しかしながら、日本や中国政府がこれを忘れて私利私欲に走るようなことがあれば国の劣化は避けられません。とりわけ企業の99.7%を担う中小企業家は、そこを肝に銘じておきたいと思うのです。



日中経済交流研修会

北京・天津視察旅行

2019年10月20日～10月25日

11月30日

西岡化建株式会社 西岡 洋子

この秋北京の地を訪れたのは、2011年4月から8年ぶりのことです。その前の年AP E C女性部会ミーティングが東京で開催され、大阪女性部で一つの分科会を受け持ちました。そのときのメンバーで北京を訪れることになり、一緒に担当した中国人女性ウーさんから紫禁城内部もご案内いただきました。北京市内は薄汚れた空気が漂い、万里の長城へ行く道では4月と言うのに激しいブリザードに会いました。

今回は思いのほか空気が綺麗で、今の中国がまず公害の防止、持続可能な環境の整備に力を入れていることを学びました。2日目に開催の講演で「日中環境協力支援センター」大野木氏による報告の中に、日本が先んじて活動しているノウハウを取り入れ、中国政府は大変早い対応でPM2.5の大気汚染から奪回しようと努力していることを知りました。法規制に至っては否応なく決定に従わせるという、一党独裁政治だからこそ出来る取締であることも知り、このときばかりはそれを良しとしました。しかしながら取締に対して違反宣告を受ける日系企業の実態を聞くと歯がゆくなりました。日系企業だけに重い罰を下している訳ではなく、中国企業にも同じ規制を強いている、すべて世界の基準に追いつこうとする中国の前向きな姿勢に驚きました。

今年は天安門事件勃発から30年を経ました。1989年6月、学生、市民運動が民主主義を掲げて天安門広場にデモ行進を進める中、政府側兵士の発砲がきっかけとなり、暴動が起きました。目の当たりに人垣を戦車が押し殺すといった惨事がテレビ画面より入ってきたのを昨日のように覚えています。私は戦後の生まれで、若いころには躍起に反戦運動をしたものですが、このように目の前で政府の横暴が繰り広げられ数百人が犠牲になった事件はあまりにもショックで、信じられませんでした。その事件を機に民主化の波は世界に波及し、その年の11月にはベルリンの壁が打ち壊され東ベルリンの社会主義は崩壊しました。中国はそののち改革開放路線をとり、今の政府に至るまで世界の経済大国として着々と力を増しGDP世界第2位にまで押しあげられました。

そうした中国の勢いを北京や天津の開発特区でも見せていただきました。土地が広い、新しい取り組みがやりやすい、進む方向さえ正しければ一党独裁政権の力と効力は何事にも負けないパワーです。しかし危惧されるのは香港における市民の活動に対する政府の圧迫、圧政です。そうした気持ちだけが抜けませんでした。一方中国を祖国としてその国に生きる人たちはどのような考えを持っているのだろうと想像し、真実が知らされない国民、政府の要人に逆らえない国民という勝手な理解をしていたことは否めません。思い切ってガイドの張さんに国家主席の習近平さんのことを聞いてみました。国民は彼の政治をどう捉えているのか、彼の独断に逆らえないのか、答えは皆様がお聞きになった通りです。「習おじさん」と呼ばれ、非常に慕われているという彼の国内の評判を聞きました。来日と聞いていますが、天皇陛下との会見にその表情を私なりに確かめてみたいと思います。

最後の日程で北京連合大学の学生さんたちの熱心な勉学の姿と、社会にでてすぐに実践できる教育の在り方に感銘を受けました。綿密な行程策定と訪問先への打合せ、そしてすべての日に美味しい中華料理をご用意くださり、幹事の皆様、ありがとうございました。素敵な旅情と、心が動く大きな学びを得ました。

先ず、ガイドさんの最後の挨拶を引用させていただきます。

「私は、感謝している。何度も中国を訪れてくれて、好きでなければできないこと。中国を好きでいてくれてありがとう。また、中国の発展を認めてくれてありがとう。両国の間には、暗い過去も有ったけれど、お互いを認め合い互いに発展していきたい。中国は急速で大きな発展を遂げた。しかし、まだまだ日本には学ぶべきところがある。例えば、ノーベル賞受賞者の数であったりお札に登場する人物像の豊富さであったり、中国は文化文明の基礎ができていないのではないかな。中国は、目先の利益（物欲等）を追う事ばかりに終始している。豊かにはなってきたけれど、それが本当の幸せなのか？ 本当の幸せはその先にあるのではないかな。物心両面での幸せを得るには至っていない。私は、そんなお互いの良い所を伝え、足らずを補い、中日の橋渡しをすることができればと思っている。」

年々「負けている感」が増している気がしているけれども、それを象徴するような彼女のコメントであったように感じます。

お金やモノでは既に充足しており（中国は優位にあり）、その事を前提に話をしておられるところに、「既に勝っている」感をありありと感じました。

他の方々にしても強気の発言をされており、特に FACTORY NETWORK CHAIN INC の YU JIN さんは、日本など眼中には無くアメリカを見ておられた。

たぶん、彼女の私見ではなく中国のそれなりのインテリ層は同様の考えの様に感じられました。日本は、アメリカに対峙する道具にしか過ぎない様に考えられている様でした。

しかし、日本に勝っている事で安堵しているわけではなく、同じ道（他国に中国が負ける）を歩まない様に盤石な基礎とその結果である成長を続けなければならないと考えていらっしゃいます。同様の事を北京屹唐半导体科技の方からも、またアルプス物流の日本人からも聞くことができたのが印象的でした。

基礎や基盤は一朝一夕には構築できないけれども、それらが備わった時多くの人口と大きな経済力を有する中国は、そら恐ろしい世界の覇者となるのではないのでしょうか。

（共通の価値観を持つパートナーであれば、恐ろしくは無いでしょうが。）

日本には、まだまだ有利な部分もあるけれども、若い方のマインドを拝見していると楽をして安心して過ごすことしか考えていない、向上心があまり感じられずノンポリも多く見受けられます。また、資源の無いこの国は卓越した技術・技能がなければ成り立たないにも関わらず、日本の若者は理系離れが激しいです。このままでは中国以外の国からも、どんどん離されていきます。

個人の思考・嗜好はコントロールできないかもしれないけれど、国を挙げて技術・文化立国を維持推進する施策を打って欲しいと感じました。

2019 年 訪中団参加 感想

エスピー工業株式会社
代表取締役 原口 彰大

私にとって今回の訪中は 全く偶然であり、奇跡に近い出会いに遭遇出来た事柄でした。その根拠は同友会に入会し 10 年近くなりますが例会を始め最近数年は全く同友会の行事に参加しておらず、送付される会報を読み皆様が熱心に活動されているのを知るのみでした。そこに最近気になっている 中国への視察パンフレットを見て参加させて頂きました。

訪中前の結団式にも仕事の調整が出来ず 参加者の方々とお会いしたのは 関西空港が初めてという状態でした。

しかしながら訪中団の皆様に温かく接して頂き本当に感謝しております。

私にとって 中国は約 10 年前のシンセン以来でした、当時は 中国の開発発展が著しくまた日本企業も多く新規進出していた時期で 街の至る所で建築工事、道路工事が行われ若い人たちが活気に満ちた印象をうけながらも、昔ながらの品祖な生活状況も少しは見る事が出来た様に感じました。

訪中前の中国に対するイメージは 今回は首都の北京という事で PM2.5 で空気も汚れ以前と同様に土木建築工事が多くの場所で行われ、公安が街角で監視し、自己主張の強い中国人相互の言い争いを止め緊張した状態を予測しておりました。こうした意味で 他の訪中団の方々に比して予備知識が少ない分 私は多大な刺激を得る事が出来たと思います。

日程に沿って感じたことを記すとすれば

まず到着し空気が非常に綺麗（到着は日曜日だったからかも）で まず驚きましたさらに建物の多くが近代的で更に道路が広く（渋滞はあるが）土地の区画整備が整然としており さすがに国家により計画的に作られた街だと感じました。

2 日目の勉強会で企業に求められる 環境負荷軽減への取り組みの話聞き 成長戦略とは相反する事にも国家が強制的に指導し対策を行っている事には 非常に驚きました。

3 日目の 中谷酒造様への訪問では 酒作りについて 今まで 水質と杜氏の技能などある意味“神がかり”で作るおいしさ酒のイメージが 水は膜での濾過と ミネラル分注入そして温度と攪拌管理など科学的な部分での 品質維持向もあると知り“目からうろこ”状態でした。

また アルプス物流様では 事情に限られた時間でしたが 中国でのビジネスの継続には法的な部分を十分理解する必要性を解かれ 物流とは 荷物の運搬を効率的に行うだけでなく中国特融の輸出入に関わる 手続きまで関与されているのにも驚きました。

また今回の訪中で 一番感動した言葉に 中国は 国家が社会主義的に方針を決定するがそれを運用するのは 各下部組織が民主主義的に運用すると言われた言葉です。

帰国後も その言葉が非常に気になっている状態です、今までの中国のイメージとしては言論の自由もなく、報道統制がされ 自身の思想や行動に制約を受け 自由が許されない国で本当に幸せなのだろうかと疑問に感じていたし、昨今の香港の様にそれに反発し自国の自治を主張するべく 騒動が発生しており、日本の日米安保の頃の様子に揺れています が 本当に今の中国政府の干渉は 悪なののでしょうか、勿論歴史的な背景からも主従関係を再考察する必要がありますが 仮に中国が香港を自国として受け入れようとするのは悪い事でしょうか 少し考えさせられます。

もとに戻して 今回の訪中は 各企業様への訪問の他に 大学生との交流があったのも嬉しかったです 実際に学生（一人っ子政策の子供たち）と接し 考えている事や日本に対する印象も聞けたのはとても有意義でした。

また 物価面においても 中国の労働者の給与の面でも殆ど日本と大差なく今までの生産国としての中国よりは 今後は多くの人口を抱えたアジア最大の消費国としての存在となるのだろうと感じました、蛇足ですが 本当に今回の食事美味しかったです。

最後に団長を始め 訪中委員の皆様のおかげで 内容の濃い充実した中国視察が出来た事に感謝すると共に 参加者の皆様に温かく迎え入れていただき 充実した訪中となり厚くお礼申し上げます、ありがとうございました。

以上

訪中団に参加して

株式会社 Pink Rose 廣瀬みゆき

今回の北京で3回目の訪中団参加となりました。

初めて参加した時のように、不安と期待が入り混じったようなドキドキ感はありませんでしたが、また今年もなんとかスケジュールを調整できて中国へ行ける喜びは大きく、わくわく感でいっぱいでした。

朝6時少し前に自宅を出て、関西空港に7時半ごろに到着。

出発までの時間は空港内でのカフェで、経営の大先輩方々とコーヒーを飲みながら例会でのグループ討論より、もっと勉強になる議論を聞かせて頂きました。訪中団参加の醍醐味をまた改めて感じました。

北京空港に到着後、待っていたのは入国審査を待つ長い行列でした。

実は関西空港から飛行機出発時刻が遅れたのも、到着する北京空港が混雑していた為で、その上こんな状況は日常茶飯事だと聞いて、こんなに大きな空港なのに・・・とびっくりしました。

いろいろな国から来た人たちが、北京の入国審査に並んでいるのを見て、中国に興味がある人は世界中にこんなたくさんいるのね。日本に興味がある人は、この中でどれだけいるのかしら？と少し寂しくなりました。

入国審査を待っている間、このゲートの向こう側はどんなところなのだろう？

北京ってどんな街なのだろう？とワクワクする気持ちで空想的になっていました。

私の北京の印象を申し上げますと、今まで訪れた中国の都市の中で、最も中国という国を意識し共産党の色を強く肌で感じたところでした。

建国70周年であるということ。そして国慶節が終わったところという理由もあるでしょうが、街中のいたるところに真っ赤なモニュメントが飾られてありました。

赤という色が、私自身の中に強く飛び込んできて、その色のもたらす意味が強く私の心に焼き付けられる。「そうだ！ここは一党独裁の国だったんだ。」と忘れかけていた記憶が私の中によみがえってきました。

二日目は朝から、日中環境協力支援センターの大野木氏の講義を聴かせて頂きました。

印象深かったのは、もはや環境が整備されないと国民の感情が抑えきれないのだろうか。

環境幸福度という言葉があり、そのために日本企業のみならずたくさんの外国企業が規制で翻弄されている現実。

その急激な変化とスピードについていけない現実。知識が乏しく、知らない間に抵触して

いることもまた事実である。

中国で起こっている環境問題について聞いた私は大きなショックを受けました。

他方、その環境問題が大きなビジネスになっていることも衝撃でした。

午後からは、ドイツとの合弁会社である北京ベンツを見学させて頂きました。

工場内で大量にアッセンブルされているベンツを見て、いかにも簡単に作業している中国人とその現場にまたショックを受けました。ベンツが大量生産されているのです。

私が知る限り、日本ではベンツは輸入車。当然、関税もかかりますので高級車になりますが、

中国では国内生産されている分、ドイツから輸入される部品のみに関税がかかると思われるので日本で購入する事に比べると少しは安く感じられるのでしょうか？

故に北京市内でたくさんの数のベンツが走っていたのかもしれません。

その後、開発区で壮大なプランのもと若い優秀な中国人たちが投資計画のプレゼンをしてくれました。誇りを持ち、自信に満ち溢れているように輝いて見えました。

年齢はすべて30代前半。日本と比較して人材の面でもはるかに負けていると感じ

いや、きっと日本にも同等な優秀な若者もたくさんいるはずだろうけれど、このように能力を遺憾なく発揮出来るような場所や機会を与えられていないといった方が正しいでしょうか。

三日目は、今回のメイン訪問先である中谷酒造様を訪れました。

天津で醸造された日本酒を中国国内で幅広く販売されています。メイドイン中国の日本酒を中国より世界に輸出するというビジネスモデルだったのですが、中国国内で販売を始められました。当初は駐在している日本人向けに日本料理店で販売していましたが、日本人が接待で使うお金はせいぜい5千円～1万円と渋く、中国人は倍の金額を落としてくれる。その後は、中国人向けに販売をしていくようになりました。

米も水も中国で調達しているのですが、水は製造されているとの事でした。日本で酒造りには水が生命線だといっている概念がまったく覆されます。

長年、中国で商売をされているせいか、中谷社長のお話の端々から中華思想を感じました。

その後、日系企業のアルプス物流様を訪問しました。

中国内での政策をうまく駆使して、保税区内外であらゆる物を物流させることで商流をスムーズにするだけでなく関税の引き下げ、購買、生産、販売、財務におけるあらゆるビジネスソリューションを考案して付加価値を提供されていました。

中国は「決定は社会主義、実行は民主主義」まったく日本と正反対でした。

とても心に深く印象に残った言葉「日本もっと頑張れ！」

速いスピードの中、変化している毎日を苦勞も多く必死で順応しながら、同じ日本人として今の日本を中国から見ていて齒がゆい気持ちでいっぱいなのでしょう。

今回の北京訪問にて、より一層中国への興味が強くなり、探求する気持ちが強くなりました。

何度行ってもよくわからない国であり、行くたびに、よりわからなくなる国だからです。

また来年も参加し、その神髓を探求すべく研究していきたいと思っています。

2019 年訪中国 北京

福地金属（株） 福地 守

同友会の日中経済交流研究会のお蔭で何度も中国に訪問したが今回は首都北京ということでぜひ参加したかった。

これまでのツアーで知っている中国よりももっと大きく強いように感じた。

空港に降り入国ゲートを通る時からすごい行列でびっくり。

ああやっぱり中国やと思ったのは高速道路のサービスエリアのトイレくらいだ。

4泊5日のスケジュールは歩く距離も大変でしたが目一杯に詰まったプログラムでした。

日曜日に北京に入り夜遅くホテルにチェックイン、翌月曜日の朝から頭を使う講演会。

講師は日中環境支援センター社長の太野木先生の中国での環境規制に関する法律セミナーでした。環境規制とは最もイメージがあわない中国ですが、もはや世界最強に厳しい規定のようで日本製の環境機器でさえ規制に合格することが大変ということらしいです。また従来の中国ならどうせ袖の下で決まるのではと思っていると大変なことになるとも聞きました。

中国政府も本気の取り組みなのか、アメリカが地球環境の保全に消極的な時に立場を強めることが狙いにあるのかも知れないと想像しました。

もちろん大都市であり比較的大きな企業ばかりだったこともあるかも知れませんが、その後の様々な訪問先でもいずれも環境を無視したようなところを見ることはなかったです。

どの訪問先でも日本の技術や市場に頼っているところは感じられず、すでに先端だけでなく平均も日本を追い越してるのではないかと心配します。

平成の30年、日本は落とした自信を取り返せず、どこかで遅れた中国を期待していたのかも知れないです。訪問先で聞いた何人もの口から逆に日本の経営者に頑張るようにエールを贈られた。彼らは本気で日本が中国と立派に競い合える相手となってほしいとまだ見捨てないでいるのでしょうか。自分たちは今世界での頂上にいる。ただ調子に乗って手を抜けばいずれ中国も日本と同じ道を進んでしまう可能性があるという危機感があることも言われました。たとえ上辺だけの言葉としても、日本はあの時（バブルで浮かれた）そんなことを想像すらできなかったのではないのでしょうか。

やはり自分の目で自分の体でグローバルに競合相手、市場を見ること、感じる事が大切ですね。帰国後また社員に“我々の競合相手は世界である”なんて大きなことを言うてしまう自分に反省します。自分をよく知ること、謙虚に見ること、浮かれすぎないこと、難しいですね。

もう一度基本に振り返るととてもいい機会をいただいた訪中国の皆様に感謝申し上げます。

2019年 訪中団報告

日本度器株式会社 藤田 眞弘

今年の訪中団は中国の首都であり政治経済の中心地である北京を訪問しました。私が最初に北京に行ったのは1996年でしたので、23年前。

2回目は社員旅行で2009年に行っていますが、それでも10年前ですから、ずいぶん変わっているだろうなと思いながらの出発でした。

ちょうど建国70周年の記念行事が終わった後ということもあって、街はずいぶん綺麗になっていました。植え込みも綺麗に剪定されていて、記念行事にける政府の意気込みがそんなところからも感じられました。

京都銀行にご協力戴いたという視察先は先進的な企業が多く、日本より進んでいると思われるような企業が多かったですが、アルプス物流という日系企業の訪問では、ご説明戴いた岩前さんの話が面白く、「日本はもっと頑張らなあかん」という言葉が印象に残っています。以前、日中の例会でご報告戴いた中谷酒造さんも見学に行きましたが、熱意のこもった社長さんの説明でも、「日本は既に中国より遅れている」というような話があり、昨年の訪中団に続いて「日本がもっと頑張らないと」感じさせられた訪中団でした。

観光で訪れた天安門広場では、ものすごい数の観光客が毛沢東記念館に入場する為に長蛇の列を作っていたのには驚きました。以前に訪問した際と全く違う雰囲気、建国70周年であることと、中国人が裕福になって観光旅行を楽しむ余裕のある人が本当に増えている事も体感出来ました。

今回の訪中では、私の部屋を部屋飲み室にして、落合顧問から差し入れて貰ったウイスキーや各自持ち寄ったお酒で毎晩過ごしましたが、毎日誰かが部屋に来て色々な事を語り合えた事も訪中団の魅力の一つではないかと思っています。おかげで「氷を下さい」を中国語で言える？ようになったのも今回の収穫です。

来年も訪中団に参加するつもりですが、その際は部屋飲みグループに入ってウダウダしゃべりたいと思います。

日中経済交流研究会 訪中国 2019 感想文

フセハツ工業株式会社

吉村篤

1. 中国の首都 北京

去年の大連に引き続き、2度目の訪中国でした。昨年は久しぶりの中国訪問でしたが、大連の超高層ビル群の発展ぶりに目を見張りました。今回は中国の首都北京ということで、発展著しい中国の首都は現在どうなっているのかに興味がありました。

2. 初日 天壇公園・北京ダック

北京は快晴で青空でした。中国の大気汚染等の環境問題が一時期やかましく報道されていましたが、そのような感じはありません。かなり改善されているのは明らかでした。

3. 二日目 中国環境セミナー・開発区企業見学・火鍋

午前中の環境セミナーでは、現在の中国環境政策が日本とは次元の違うレベルの厳しいものであることを知りました。開発区の企業はスマートで、若い人達の活躍が目立ちました。印刷工場では北京で操業を続ける工場の環境対策も含め経営戦略等を学びました。

4. 三日目 天津 中谷酒造・アルプス物流・ロボットレストラン

日本から進出している天津の企業2社を訪問しました。中谷酒造さんでは中国と日本でのお酒づくりの違いや面白い裏話が聞けました。アルプス物流さんでは中国の複雑な物流政策にうまく合致した大手では真似できないビジネスモデルについて学びました。

5. 四日目 天安門広場・北京連合大学・雑技団・日本居酒屋

建国70年ということもあり、毛沢東記念館に並ぶ人の凄い行列に驚きました。北京連合大学では実学をメインに最新の画像設備や通信機器を駆使して授業されており、中国が教育に大きな力を入れていることがよくわかりました。夕食では現地で中国政府の立法を支援している日本人弁護士さんのお話があり、中国が日本の法律を熱心に研究していることを知りました。

6. まとめ

日本では「米中経済摩擦」が話題になることが多いですが、中国人は自分たちの課題（経済摩擦や高齢化、防衛など）を冷静に認識しており、自分たちが向かうべき方向へ着実に進もうとしているようでした。「トイレの清潔さはまだ日本が勝っている」という感想も聞かれましたが、対中国観の再構築が必要な時期にきていると感じました。

以 上

訪中団感想文

細田工業株式会社 細田新介

訪中団には3年連続、3回目の参加になります。

出張や訪中団で何度か中国には行っていますが、首都である北京に行けるということで楽しみにしていました。

旅の目的として中国の発展を肌で感じる、学んでいる中国語を使う、グルメを楽しむの3つを掲げ、関空へと向かいました。

近年よく耳にする日系企業が中国から撤退する要因として、人件費高騰や政治的要因、法律の変更などが多いと思っていましたが、環境問題による生産停止や罰金も大きな要因であることを知りました。

今回の大学訪問は弊社社員の戴の母校ということで楽しみにしていました。

案内してもらってビックリ。とても広くて様々な最新設備がいっぱい。

ところで日本から持ち込んだ大量のお菓子は喜んでくれたのでしょうか！？

チラッと聞いた話だが、今や学生が日本に来たい理由は中国では就職が難しい、日本でなら簡単という内容。

それから、面白いなあと思ったのは、ロボットが料理を運んでくるレストランや顔認証で支払完了する自販機、いたるところにあるスマホ決済の乗り捨て可能なレンタル自転車。毎年行く度にこういった分野で急成長していく中国を感じます。

今回はホテル、スーパー、レストラン、大学と出来るだけ中国語を使うよう意識しました。実感としては話すのは何とか通じるが、聞き取りが非常に苦手だということ……。帰国してからはリスニングに力を入れています。

グルメに関しては包子と火鍋が特に美味しかった。普段、羊肉は苦手だが、火鍋で食べるのは好き。

雑技団は凄いい迫力で見入ってしまいました。生で見られて本当に良かった。

今回もハードなスケジュールでしたが、学びに観光にグルメと充実した旅となりました。

2019 訪中国（北京）感想文

細田工業株式会社

細田麗

今回で3度目の中国訪問&訪中団への参加となりました。初めて首都に行けるということで、とても楽しみにしていました。

企業訪問で印象的だったのは、2日目に行かせて頂いた北京ベント様。車工場の見学は初めてだったのですが、普段は完成形しか見ることのない自動車が組まれていく様子というのは、とても迫力がありました。見学が徒歩ではなくサファリパーク的な車だったのもアイデアが面白いなと思いました。これだと徒歩に比べて非常に時短ですね。

それから、3日目に行かせて頂いた中谷酒造様。講話も非常にパワフルで面白かったですし、お酒の工場も初めて見させて頂き、興味深かったです。

企業訪問もギュッと詰め込まれていましたが、今回は天壇公園であったり天安門広場であったり、観光も盛り込まれていて非常に有意義に感じました。どちらもとても規模が大きく、中国の土地の広さを今一度感じさせられました。自由参加の秀水街も、買い物予定はなかったのですが見てみたくて参加しました。あれは観光客向けで現地の人はあまり来ないそうですね。自分は何も買わなかったのですが、値切り交渉も、旅に来た感が味わえて面白そうでした。

大学見学は、弊社の社員、戴さんの母校の訪問ということで非常に楽しみにしていました。校舎がとにかく大きく敷地が広い・・・そして、案内された棟は新しい建屋らしく、室内でゴルフやスキーのバーチャル体験及び練習ができる装置や3Dプリンタ等、近代的な装置が多くあり、紹介されるもの一つ一つのレベルの高さに驚かされました。

学生さんとの会話は、自分の拙い中国語会話を試みる絶好の機会なので、毎年本当に楽しみです。校舎見学中の会話も、教室内で座って話す際も、頑張って自分の知っている中国語で会話を試みました。通じた時はとても嬉しいです。

中国語を勉強している身なのですが、今回はコンビニやホテルフロント、レストラン、学校等々、色々な場面で中国語を使おうと試みました。通じないことも多いけれど、もっと使えるよう頑張りたいですね。あとヒアリングを鍛えたいなと思いました。

今回も内容が盛沢山で、企画して頂いた皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。参加させて頂き、本当にありがとうございました。

2019 訪中国 in 北京・天津

細田工業㈱ 戴 維雅

前回の訪中国参加から早いもので一年が経ち、2回目の参加となりました。今回の訪問都市は私の故郷である北京市であり、半年以上前の企画段階から訪中委員会の打ち合わせに出席し、行程に関する助言や現地のコーディネートを担当させて頂き、委員の皆様と綿密な計画を練ってきました。

北京へ降り立ち、「地元」の様々な変化に驚きました。

市民の経済活動について、現金決済はもはや少数派となっており、キャッシュレス決済は勿論のこと、交通系 IC カードもアプリで改札を通過できます。タクシー配車や飲食デリバリー等、全てスマートフォンで完結します。経済活動の加速度的な成長は市民に行き渡り、キャッシュレス社会が深く浸透していると実感しました。

大気汚染について、5日間の滞在期間中、「空気は悪くなかった」と実感しました。マスクを持参して来ましたが、出番がありませんでした。日中環境協力支援センター・北京大野木環境コンサルティングの大野木社長の講演によると、中国政府が大気汚染対策を強化してきた成果とのことです。汚染防止攻略や環境法の制定等で、今後の環境規制は更に厳しくなる傾向となっています。事実、北京市生態環境局発表の、本年7月度のPM2.5平均濃度は、同期比で史上最低値になっていました。法令違反のある企業に対しては、政府として厳しい姿勢で臨んでおり、取り組みに対する今後の中国環境問題や政府政策に注目すべきだと思います。

道路事情について、兼ねてより大渋滞都市と言われている北京市の道路事情は、想像を超えたものでした。10kmの移動で1時間の所要を想定していましたが、実際は1時間20分要しました。また、天津から北京への復路での道中、国慶節期間で貨物車の一斉検査が行われており、高速道路上で立ち往生の状態となりました。ホテルに到着したのは0時過ぎ。今となっては、中国の道路事情は台数だけの問題ではなく、その時々行事によって大きく変化するのだという体験になったと思います。

北京連合大学訪問について、9年ぶりに母校を訪れる形となり、校舎や館内施設の近代化に感銘を受けました。顔認証の自販機や4D映画館、シミュレーションゴルフまで完備されていました。長く日本にいますので、その発展の度合いやスピード感を改めて外から体感することが出来ました。訪中国の方々とのお話の中で、「中国がこんなに速く発展出来るのは一党制だからだ」という意見が挙がりました。正にその通りで、アルプス物流さんが仰った「中国は、決定は社会主義、実行は民主主義」が当てはまります。

終わりに、中国で世界最大の5Gサービス開始に伴い、今後、日本社会との関わり方が益々注視されていくことになると考えています。

今回も訪中国に参加させて頂き、ありがとうございます。現地で得た知見を存分に活かしていきたいと思っています。